

せんだいメディアテーク年報 (2018年度)

はじめに

2018年度は、これまで取り組んできたいくつかの事業の成果が発信された年となりました。

地域の歴史や社会的課題を調査し、その成果を展示を通じて表現する「調査と表明」事業は最終年を迎え、加藤至、星野文紀、吉田祐によるアーティスト・グループ「ヒスロム」による展覧会「ヒスロム 仮設するヒト」を開催しました。2009年から、人や文化との出会いをもとに、身体を用いた行為「フィールドプレイ」を各地で実施し、映像や写真、パフォーマンス作品として表現してきた彼らの国内では初めてとなる大規模な個展であり、造成地に見立てた巨大な展示空間づくりを通してメディアテークも新たな経験を積むことができました。

震災アーカイブ事業「3がつ11にちをわすれないためにセンター（わすれん!）」では館内における展示および関連イベントに加え、わすれん!のコンテンツを集約し、モバイル装置で展示できる装置「アーカイブィークル」を館外でのイベントに出展するなど情報発信に努めました。

スタジオを拠点とした協働によるプロジェクト「メディアスタディーズ」では、すでに定着した活動に加え、「知る 続く 在来作物プロジェクト」「カミングアウト/クローゼット」など新たな取組みの成果も発信されるようになりました。

3年目を迎えた「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」では、復興と向き合うための長期プロジェクト「川俣正/仙台インプログレス」において貞山運河を渡る「みんなの船」を制作し地元町内会主催のイベントで活用したほか、公開ミーティングや報告展を開催し活動の発信に努めました。またアーティスト藤浩志によるごみの資源化プロジェクト「ワケあり雑がみ部」では仙台七夕まつりに合わせた造形活動と作品展により、その成果を広く発表することができました。そのほか東北の文化・営みについてアーティストが調査し表現する拠点として前年度に開設した「東北リサーチとアートセンター（TRAC）」をパートナー3団体と運営しました。

仙台地域のミュージアム施設の連携による SMMA（仙台・宮城ミュージアムアライアンス）では恒例となった「ミュージアムユニバース」を開催したほか、「SMMA 見験楽学ツアー」では仙台の街なかに残されている歴史文化の魅力を市民のみなさんに伝えることができました。

せんだいメディアテークは2020年1月に開館20年を迎えます。この年報がこれからの当館の進むべき方向性をみなさんとともに考える一助になれば幸いです。

目次

1. 施設の概要

- 1-1. 施設
- 1-2. 沿革
- 1-3. 組織
- 1-4. 収支
- 1-5. 施設使用実績

2. 企画事業

- 2-1. 「調査と表明」事業
- 2-2. 発信・活用推進事業
- 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」
- 2-4. その他事業（自主財源事業ほか）

3. 受託事業

- 「3がつ11にちをわすれないためにセンター」

4. 情報サービス事業

- 4-1. 映像音響ライブラリー
- 4-2. 教材ライブラリー
- 4-3. 視聴覚障害者情報ライブラリー（バリアフリー・ライブラリー）
- 4-4. 地域映像ライブラリー
- 4-5. デジタルアーカイブ事業
- 4-6. 活動支援事業

5. 配布・刊行物等

- 5-1. 書籍や報告書等の印刷物
- 5-2. DVDメディア等の映像音響資料
- 5-3. 紙やインターネットを通じた定期発行等
- 5-4. その他常備している印刷物

1. 施設の概要

1. 施設の概要 > 1-1. 施設、1-2. 沿革、1-3. 組織

1-1. 施設

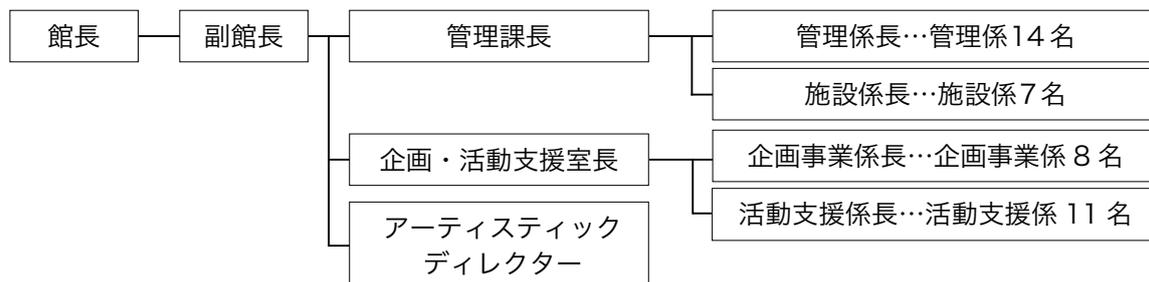
- 所在地 仙台市青葉区春日町2番1号
- 開館時間 9:00-22:00 (階により異なる)
- 敷地面積 3,949㎡
- 構造 鉄筋造一部鉄筋コンクリート造地下2階地上7階建
- 延床面積 21,682㎡
- 主な施設内容
 - 地下2階 書庫、収蔵庫、機械室
 - 地下1階 駐車場、書庫
 - 1階プラザ (定禅寺通に開かれた屋内型公開空地、オープンスクエア、カフェ、ショップ)
 - 2階ライブラリー (映像音響資料、児童書、新着新聞雑誌等の閲覧)
 - 3・4階ライブラリー (仙台市民図書館)
 - 5階ギャラリー 3300 (固定壁面を中心とする天井高3,300mmの展示空間)
 - 6階ギャラリー 4200 (可動壁面で自由に構成できる天井高4,200mmの展示空間)
 - 7階スタジオ (施設貸出・相談窓口、スタジオシアター、各種スタジオ)

1-2. 沿革

- 平成 元年 (1989年) 宮城県芸術協会が大型ギャラリーを中心とした美術館建設の要望書提出。
- 平成 4年 (1992年) 定禅寺通に図書館を併設した市民ギャラリーを建設する方針が定まる。
- 平成 6年 (1994年) 市民ギャラリー、図書館、映像メディアセンター、視聴覚障害者のための情報提供施設の機能を併せ持つ芸術文化施設とすることが決まる。
- 平成 7年 (1995年) 設計競技により、伊東豊雄建築設計事務所が選ばれる。
- 平成 9年 (1997年) 12月着工。
- 平成12年 (2000年) 8月竣工。
- 平成13年 (2001年) 1月26日開館。仙台ひと・まち交流財団が管理 (図書館は仙台市直営)。グッドデザイン大賞受賞。
- 平成16年 (2004年) 仙台ひと・まち交流財団を指定管理者として指定。
- 平成19年 (2007年) 業務移管により、仙台市市民文化事業団を指定管理者に指定。
- 平成20年 (2008年) 館内フロアレイアウトを一部変更。
- 平成23年 (2011年) 地域創造大賞受賞。東日本大震災により休館。5月3日から一部再開し、翌年1月27日に全館再開。
- 平成25年 (2013年) 館長に鷲田清一 (哲学者) が就任。

1-3. 組織

所管 仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課
 指定管理者 公益財団法人仙台市市民文化事業団 (図書館は仙台市直営)



(他、嘱託職員含め 46名 平成 30年 [2018年] 5月時点)

1. 施設の概要 > 1-4. 収支、1-5. 施設使用実績

1-4. 収支

(1) 収入の部

指定管理料	577,596千円
事業収入（企画事業、受託事業を含む）	74,261千円
《内訳》	
・補助金	45,801千円
・各種助成金	9,980千円
・入場料等	978千円
・受託事業収入	13,204千円
・仙台市市民文化事業団自主財源	705千円
・負担金収入	3,593千円

(2) 支出の部

管理運営費（施設の維持管理、情報サービス事業を含む）	577,596千円
事業費（企画事業、受託事業を含む）	74,261千円

1-5. 施設使用実績

(1) 施設使用実績

施設	貸出単位	利用日(週)数 ／開館日(週)数	日(週)数ベース 利用率	利用者数
5階ギャラリー	週	49／49	100%	124,564
6階ギャラリー	週	44／49	89.8%	127,474
オープンスクエア	日	250／334	74.9%	85,832
スタジオシアター	1日3区分	180／315	57.1%	19,305
2階会議室	1日3区分	286／339	84.4%	4,486
7階会議室	1日3区分	328／336	97.6%	9,759
プラザ控室 a	1日3区分	191／342	55.8%	1,026
プラザ控室 b	1日3区分	222／342	64.9%	1,899
託児室	1日3区分	17／342	5%	42

*5/6階ギャラリーは週数ベース

使用料等徴収額 65,625千円

(2) 視察等の対応

視察 124件 1,477人
報道（新聞・テレビ・書籍・雑誌） 107件

(3) その他

博物館実習の受け入れ 7名（5校）

2. 企画事業

メディアを活用した生涯学習活動および文化活動にかかる、展示・上映・ワークショップ等。

2-1. 「調査と表明」事業

国内外で活躍するアーティストや市民活動団体が協働し、地域の歴史や社会的課題を調査し、その成果を展示を通じて発表することで再び地域に還元するとともに、「考えるテーブル」など人々に開かれた場をしつらえ、主体的な社会参加を文化面から活性化する事業。

A《展覧会》

2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 > A《展覧会》

(1) ヒスロム 仮設するヒト

会期：2018年11月3日-12月28日
 会場：6f ギャラリー4200
 入場・参加者数：4,995名
 入場料等：一般500円（大学生・専門学校生含む）、高校生以下無料（豊齢カード、障害者手帳をお持ちの方は半額）
 共催等：TBC 東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB 東日本放送、河北新報社、朝日新聞仙台総局、読売新聞東北総局、毎日新聞仙台支局、産経新聞社東北総局、日本経済新聞社仙台支局、仙台リビング新聞社、せんだいタウン情報 S-style、エフエム仙台、ラジオ3FM76.2（後援）
 夏堀陽一（協力）
 一般財団法人地域創造、芸術文化振興基金（助成）

身体を用いたアクションによって土地と人間の関係を探索するアーティスト・グループ「ヒスロム」のおよそ10年間の活動を紹介する国内初となる大規模な個展。映像やオブジェなど国内各地での活動の記録物や制作物をギャラリー全体を使って展示しました。



(2) ギャラリーツアー

（「ヒスロム 仮設するヒト」関連企画）

会期：2018年11月3日、11月17日、12月8日
 会場：6f ギャラリー4200
 入場・参加者数：45名
 入場料等：無料（要展覧会チケット）
 共催等：（展覧会に同じ）

メディアテークの学芸員や展示作家と一緒に展覧会を観るツアーを会期中3回にわたり実施しました。11月3日は展示作家のヒスロムも参加して行われました。



(3) ヒスロムによる「作業」

（「ヒスロム 仮設するヒト」関連企画）

会期：2018年12月21日-28日
 会場：6f ギャラリー4200
 入場・参加者数：420名
 入場料等：無料（要展覧会チケット）
 共催等：（展覧会に同じ）

展示作家のヒスロムが、展示物や展示空間を用いたアクション・パフォーマンス「作業」を会期末の8日間連続して行いました。



(4) 岡啓輔さん（蟻鱒鳶ルダー）とヒスロムの座談会

（「ヒスロム 仮設するヒト」関連企画）

会期：2018年12月28日
 会場：7f スタジオb
 入場・参加者数：35名
 入場料等：無料
 共催等：（展覧会に同じ）

ヒスロムと交流がある建築家の岡啓輔氏が、セルフビルドによる建築「蟻鱒鳶ル」（アリマストーンビル）について紹介し、ヒスロムの活動との共通点について参加者を交え意見交換しました。

B《スタジオ情報発信__考えるテーブル等》

2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 >
B《スタジオ情報発信__考えるテーブル等》

(1) 考えるテーブル てつがくカフェ

会期：2018年7月15日、9月23日、
11月25日、2019年1月20日、
3月31日（全5回）
会場：7fスタジオ a
入場・参加者数：157名（23名、35名、
31名、30名、46名）
入場料等：無料
共催等：てつがくカフェ@せんだい（共
催）、一般財団法人地域創造（助成）

2011年度から継続し、8年目を迎
えた事業。今年度は事前にテーマ
を設定せず（3月31日のみ「『二重
のまち—交代地のうたを編む』の映
像記録から継承を考える」と題して
実施）、参加者と毎回その場でテーマ
を探りつつ、「怒りとは何か」「コ
ミュニケーション」などの言葉を鍵
に対話を深めていきました。



(2) 考えるテーブル どこコレ？

（「どこコレ？—おしえてください昭和のセンダイ」関連企画）

会期：2018年4月29日
会場：1fオープンスクエア
入場・参加者数：43名
入場料等：無料
共催等：NPO法人20世紀アーカイブ仙
台（共催）、一般財団法人地域創造（助成）

来場者とともに、写真を見ながら
テーブルを囲んで、「コレ」は「ど
こ」なのか推測したり、思い出を話
し合ったりする取組み。今回は、前
回から継続して情報を集めている写
真や新たに展示した写真を囲み、話
し合いました。新たに場所が「確定」
した写真もあり、たくさんの声が集
まる場となりました。



(3) 考えるテーブル 民話ゆうわ座

（「民話 声の図書室」関連企画）

会期：2018年12月22日
会場：1fオープンスクエア
入場・参加者数：292名
入場料等：無料
共催等：民話 声の図書室プロジェクト
チーム（共催）、一般財団法人地域創造
（助成）

「昔々、あるところに、おじいさん
とおばあさんがありました」—私た
ちの先祖はなぜこのように語り始め
てきたのか。みやぎ民話の会が採訪
のなかで度々聞いた「一粒の豆」を
めぐる話を手がかりにして参加者と
ともに考えました。



2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 >
B《スタジオ情報発信_考えるテーブル等》

(4) 考えるテーブル ユースてつがくカフェ てつこの部屋

会期：2018年7月22日、8月25日、
9月24日、10月28日、11月23日、
12月22日、2019年1月27日、
2月24日、3月30日（全9回）

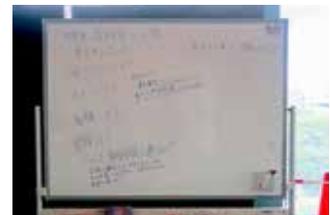
会場：7f スタジオ a

入場・参加者数：32名（3名、3名、8名、
4名、3名、3名、4名、2名、2名）

入場料等：無料

共催等：てつがくカフェ @ せんだい（共
催）、一般財団法人地域創造（助成）

中高生のためのてつがくカフェ。て
つがくカフェや運営のための会議な
どを中高生たちと行いました。



(5) みやぎシネマクラドル 映像サロン

会期：2018年9月1日、2019年2月
16日（全2回）

会場：7f スタジオ b

入場・参加者数：51名（23名、28名）

入場料等：無料

共催等：みやぎシネマクラドル（共催）、
一般財団法人地域創造（助成）

宮城周辺で活動する映像作家と市民
が交流しながらネットワークを広め
ていくプロジェクトの一環として、
映像を見ながら語り合う場を設けま
した。

[テーマ]

- ・映画祭という試みの場—観る発見、
つくる喜び、広がる世界—
- ・自主制作映画への欲求—テレビか
ら個人の表現へ—



C《スタジオ情報発信__ラウンジ交流展示》

2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 >
C《スタジオ情報発信__ラウンジ交流展示》

(1) ラウンジ交流展示 どこコレ?—おしえてください昭和のセンダイ

会期：2018年4月29日-5月6日（前期）、
5月7日-6月17日（後期）
会場：1f オープンスクエア（前期）、
7f ラウンジ（後期）
入場・参加者数：25,092名（前期：9,673
名、後期：15,419名）
入場料等：無料
共催等：NPO 法人20世紀アーカイブ仙
台（共催）、一般財団法人地域創造（助成）

2012年度から続いているプロジェ
クト。仙台のどこかではあるけれど
も詳細がわからない古い写真を展示
し、来場者の記憶や証言をもとに、
それら写真の場所や年代を明らかに
しました。また、これまでの活動の
成果の一部をウェブサイトでも公開
しました。



(2) ラウンジ交流展示 「知る 続く 在来作物プロジェクト」展

会期：2018年7月1日-8月26日
会場：7f ラウンジ
入場・参加者数：4,256名
入場料等：無料
共催等：みやぎ在来作物研究会（共催）、
一般財団法人地域創造（助成）

地域で、世代を越えて、自家採種な
どによって栽培・保存を続けながら、
地域の食文化を育んできた「在来作
物」。今回の展示では、みやぎ在来
作物研究会が2013年から訪ねて
きた「在来作物」のその姿や、生産
者、そしてそこでうかがったお話な
どをパネルなどで紹介しました。

[イベント]

・タネのおはなし会—タネをとる人、つ
くる人—
(7月22日/7f スタジオ a /参加者数：
90名)



2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 >
C《スタジオ情報発信_ラウンジ交流展示》

(3) ラウンジ交流展示 細倉を記録した寺崎英子のまなざし展 カラー編

会期：2018年11月17日-12月27日
会場：7f ラウンジ
入場・参加者数：7,030名
入場料等：無料
共催等：寺崎英子写真集刊行委員会（共催）、仙台写真月間2018（協力）、一般財団法人地域創造（助成）

[イベント]

・ギャラリートーク「ひとびとの細倉・寺崎英子と私」
(12月9日/7f ラウンジ/参加者数：43名)

2016年度から続くプロジェクト。宮城県北西部に位置した細倉鉱山の閉山後の町や人びとを記録してきた故・寺崎英子氏。彼女が遺した約13,000カットのネガをアーカイブし、写真集刊行を目指しています。その中間報告として、スキャンが終了したカラーネガから、約250点の写真を新たに見つかった資料とともに紹介しました。



(4) ラウンジ交流展示 カミングアウト/クローゼット

会期：2019年1月12日-2月28日
会場：7f ラウンジ
入場・参加者数：4,930名
入場料等：無料
共催等：レインボーアーカイブ東北（共催）、一般財団法人地域創造（助成）

[イベント]

・言う？言わない？—「カミングアウト/クローゼット」について考える—
(2019年1月26日/7f スタジオ a / 参加者数：48名)

2016年3月に仙台で実施されたカミングアウト・フォト・プロジェクト「OUT IN JAPAN 東北プロジェクト」に関わった人たちに行ってきたインタビューの紹介展示と、その内容をまとめた冊子を発行しました。



D《地域文化アーカイブ》

2. 企画事業 > 2-1. 「調査と表明」事業 > D《地域文化アーカイブ》

(1) 民話 声の図書室

2012年度から引き続き、民話 声の図書室プロジェクトチームとの協働により、みやぎ民話の会が45年にわたって記録してきた、宮城県を中心とする民話語りの映像・音声の資料化を行いました。さらに、あらたな記録活動を進めるとともに、「考えるテーブル 民話ゆうわ座」の開催、「とぶらす・ウィーク」での資料展示を行ったほか、DVD4本、CD 6枚を制作、映像音響ライブラリーで公開しました。



(2) どこコレ？—おしえてください昭和のセンダイ

2012年度から引き続き、NPO 法人20世紀アーカイブ仙台と協働し、「考えるテーブル」や「ラウンジ交流展示」を通じて、詳細が不明な仙台の古い写真のアーカイブに取り組みました。また、ウェブサイトでは、展示した写真を来場者のコメントが書かれた付箋とともに公開しました。



2-2. 発信・活用推進事業

各種団体との連携を通じて地域における役割を担うとともに、市民図書館をふくめたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性化を図る事業。

A《バリアフリー・デザイン》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > A《バリアフリー・デザイン》

(1) バリアフリー上映「地下鉄（メトロ）に乗って」

会期：2018年5月27日
 会場：7f スタジオシアター
 入場・参加者数：152名（2回上映）
 入場料等：無料
 共催等：—

ボランティアの制作による目の不自由なかが楽しめる音声解説、耳の不自由なかが楽しめる日本語字幕、また、託児サービスを併せた上映を行いました。

[上映作品]

「地下鉄（メトロ）に乗って」
 （監督：篠原哲雄／2006年）



(2) バリアフリー上映「伊豆の踊子」

会期：2018年12月2日
 会場：7f スタジオシアター
 入場・参加者数：108名（2回上映）
 入場料等：500円
 共催等：—

ボランティアの制作による目の不自由なかが楽しめる音声解説、耳の不自由なかが楽しめる日本語字幕、また、託児サービスを併せた上映を行いました。

[上映作品]

「伊豆の踊子」
 （監督：西河克己／1963年）



(3) 日本語字幕制作講座

会期：2018年6月8日、15日、22日、25日、7月2日、11日、23日、30日
 会場：7f スタジオb
 入場・参加者数：8名
 入場料等：無料
 共催等：—

耳の不自由なかが映画を楽しむための日本語字幕を制作する技術を学ぶ講座を実施しました。



(4) 手ではなすおはなしの会

会期：2018年7月29日、12月16日(全2回)

会場：2f 会議室、7f 会議室 b

入場・参加者数：38名(18名、20名)

入場料等：無料

共催等：仙台市民図書館

ボランティア・グループ「まほうの手」による手話のおはなし会を実施しました。



B《館長発信事業》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > B《館長発信事業》

(1) 鷲田清一とともに考える 9

会期：2018年9月22日
 会場：1f オープンスクエア
 入場・参加者数：240名
 入場料等：無料
 共催等：一般財団法人地域創造（助成）

2014年度から続く、当館館長で哲学者の鷲田清一が、各分野のプロフェッショナルと語り合うシリーズ。建築家の山本理顕氏をゲストに迎え、現代におけるコミュニティのあり方について、ともに考えました。



(2) 鷲田清一とともに考える 10

会期：2019年1月27日
 会場：1f オープンスクエア
 入場・参加者数：231名
 入場料等：無料
 共催等：一般財団法人地域創造（助成）

2014年度から続く、当館館長で哲学者の鷲田清一が、各分野のプロフェッショナルと語り合うシリーズ。新聞記者の小国綾子氏をゲストに迎え、人生の「転機」について、ともに考えました。



C 《地域文化連携》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > C 《地域文化連携》

(1) ショートピース！仙台短篇映画祭2018

会期：2018年9月15日-17日
 会場：7fスタジオシアター、1fオープンスクエア
 入場・参加者数：1,338名
 入場料等：前売券＝全日フリーパス4,000円、3プログラム回数券2,500円 当日券＝1プログラム券1,000円（高校生以下、豊齢・障害者手帳等で800円）、ほか
 共催等：仙台短篇映画祭実行委員会（共催）

市民有志による実行委員会と共催で、仙台で上映される機会が少ない短篇映画を中心とした映画祭を行いました。制作者を招聘してのトーク、バリアフリー上映、映像制作ワークショップなど、映画を上映するだけでなく、さまざまな角度から映画にふれる機会となりました。

[上映プログラム]

- ・ムーラボ旋風
- ・こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！
- ・映画監督・柄本佑特集
- ・バリアフリー上映「光」
- ・新しい才能に出会う
- ・フランス映画ポスターコレクション展
- ・在仙中学・高等学校生作品上映プログラム 他

[ゲスト]

北原和明、直井卓俊、岩切一空、前田聖来、清原惟、澁谷浩次、今泉力哉、ボンジュール鈴木、片岡翔



(2) せんだいデザインリーグ2019 卒業設計日本一決定戦

会期：2019年3月3日-10日
 会場：1f オープンスクエア、5f ギャラリー3300、6f ギャラリー4200、7f スタジオシアター、7f スタジオ a、スタジオ b
 入場・参加者数：4,289名
 入場料等：無料
 共催等：仙台建築都市学生会議（共催）

17回目を迎える、建築を学ぶ学生たちの卒業設計が一堂に会し、日本一を決めるイベント。

[審査員]

平田晃久(審査員長)、Tom Heneghan、家成俊勝、柘澤麻利、西澤徹夫、武井誠、中川エリカ、櫻井一弥

[入賞作]

日本一：富樫遼太・田淵ひとみ・秋山幸穂（早稲田大学）『大地の萌芽更新－「土地あまり時代」におけるブラウンフィールドの Renovation 計画－』、日本二：十文字萌（明治大学）『渋谷受肉計画－商業廃棄物を用いた無用地の再資源化－』、日本三：中家優（愛知工業大学）『輪中建築－輪中地帯の排水機場コンバージョンによる水との暮らしの提案－』



(3) 定禅寺通りイベント共催等事業等

ストリートに開かれた場として、定禅寺通りを中心に開催されているイベントと連携・協力しました。

a) 仙台・青葉まつり協賛会との連携

今回で34回目となる「仙台・青葉まつり」にあわせ、青葉まつりの歴史紹介や、すずめ踊りの参加祭連の紹介、演舞披露を行いました。
(2018年5月19日-20日/1f オープンスクエア/来場者数:1,254名)



b) とっておきの音楽祭実行委員会 SENDAI との連携

「みんなちがって、みんないい」を合言葉に、障がいのある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、「心のバリアフリー」を目指す「とっておきの音楽祭」にあわせ、1f オープンスクエアを会場としたイベントを行いました。



[イベント]

・スペシャルライブ

(4月22日/1f オープンスクエア/来場者数:479名)

・本祭開催時の会場

(6月3日/1f オープンスクエア/来場者数:764名)



c) 定禅寺ストリートジャズフェスティバル実行委員会との連携

今回で28回目を迎える「定禅寺ストリートジャズフェスティバル in 仙台」にあわせ、夏の交流ライブほか、本祭時にはメディアテーク・ステージを開設しました。



[イベント]

・交流ライブ

(7月15日-16日/1f オープンスクエア/来場者数:1,196名)

・本祭開催時の会場

(9月7日-9日/1f オープンスクエア/来場者数:6,556名)



d) その他

「SENDAI 光のページェント」の開催時期にあわせ、1f オープンスクエアで人々が自由に集い、くつろいだ時間を過ごすことのできる広場を提供しました。(12月17日-28日/1f オープンスクエア)

D《施設活用推進》

2. 企画事業 > 2-2. 発信・活用推進事業 > D《施設活用推進》

(1) とぶらす・ウィーク

会期：2018年7月28日-8月2日
 会場：1f オープンスクエア、2f 映像音響ライブラリー、図書館ほか
 入場・参加者数：2,745名
 入場料等：無料
 共催等：仙台市民図書館（共催）

「書評をたのしむ」をテーマに、河北新報で連載されている「東北の本棚」や、東日本大震災に関する本を収集・展示している「震災文庫」と連動した展示やトークを行ったほか、「歩き出す」人びとをテーマにわすれん！ DVD から選定した上映プログラム、「シネバトル」の有名プレゼンターが映像音響ライブラリーから選ぶ映画の上映、フィルム映写での上映体験などを行いました。



(2) スクエア図書館

会期：2018年4月11日-13日
 会場：1f オープンスクエア
 入場・参加者数：1,539名
 入場料等：無料
 共催等：仙台市民図書館（共催）

仙台市民図書館とせんだいメディアテークの共催による書籍史料の特別展示。「仙台と出会う」をテーマに、ライブラリーの所蔵資料から、地域の歴史や情報、つれづれの四季・自然に関するものを展示。その他仙台市発行の生活情報パンフレットなども配布しました。



2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」

「優れたアーティストのユニークな視点と仕事」と、地域の「人材、資源、課題」をつなぐ事業。

A《地域展開事業》

2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」> A《地域展開事業》

(1) 川俣正／仙台インプログレス

会期：通年

会場：仙台市沿岸部、せんだいメディアテーク

入場・参加者数：—

入場料等：—

共催等：新浜町内会、東北生活文化大学、NPOわたしの家、貞山運河研究所（協力）
損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」（企業メセナ協議会 2021 Arts Fund）（助成）

[イベント]

- ・アートノード・ミーティング05
（B《コミュニケーション事業》を参照）
- ・川俣正 仙台インプログレス 2018 活動報告展
（2019年2月1日-3月21日／会場：7f／参加者：5,663名）
- ・海岸沿いの新たな構想づくりワークショップ
（2月16日／会場：1f オープンスクエア／参加者：10名）

[参加イベント]

- ・貞山運河の船遊びと新浜フットパス 2018 Part2
（2018年8月4日／会場：宮城野区新浜地区／参加者数：80名／主催：貞山運河研究所、新浜町内会）
- ・貞山運河の船遊びと新浜フットパス 2018 Part3
（10月14日／会場：宮城野区新浜地区／参加者数：50名／主催：貞山運河研究所、新浜町内会）
- ・貞山運河であいましょう 貞山運河フォーラム《ワークショップ成果発表展示》
（2019年2月17日／1f オープンスクエア／参加者数：613名／主催：貞山運河研究所、新浜町内会）

川俣正氏による仙台市沿岸部の課題に長期的に向き合うプロジェクト。「みんなの橋」制作に向けた取り組みとして、今年度は貞山運河を渡る「みんなの船」を制作し、地元町内会主催の「貞山運河の船遊びと新浜フットパス2018 Part2」（2018年8月4日）に参加し進水式を行うなどしました。また、「アートノード・ミーティング05」（8月5日）や「川俣正 仙台インプログレス 2018 活動報告展」（2019年2月1日-3月21日）を実施し、活動を広く紹介しました。



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」> A《地域展開事業》

(2) 藤浩志／ワケあり雑がみ部

会期：通年
 会場：仙台中心市街地、せんだいメディアテーク7f スタジオ b ほか
 入場・参加者数：5,977名（イベント参加）
 入場料等：無料
 共催等：仙台市環境局家庭ごみ減量課（共催）

[イベント]

- ・ワケあり雑がみ部2018 部活動立ち上げ式
 (5月19日／参加者数：30名)
- ・ワケあり雑がみ部2018 あらためて知りたい祈りと紙のまつり“七夕”
 (6月9日／参加者数：25名)
- ・本日開店！「お食事処 雑味」
 (6月17日／参加者数83名)
- ・ワケあり雑がみ部2018 雑がみ工場見学ツアー
 (6月20日／見学：山傳商店仙台港リサイクルセンター／参加者数：29名)
- ・雑がみデコデコトラック
 (7月7日／参加者数：115名)
- ・ワケあり雑がみ部 成果発表展示
 (8月4日-8日／1fオープンスクエア／参加者数：5,648名)
- ・ワケあり雑がみ部2018 活動振り返り会
 (8月5日／1fオープンスクエア／参加者数：47名)

2017年から始まったごみの資源化プロジェクト「ワケあり雑がみ部」の第二期。5月から8月にかけて、毎週部活を展開し、館内や市役所内で収集した3種類（紙箱・包装紙・紙袋）の雑がみを使って自由に作品を制作しました。



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」> A《地域展開事業》

(3) 東北リサーチとアートセンター (TRAC)

2017年度に続き、仙台や東北の歴史・資源・課題などを調べ、アートや表現につなげる活動と交流のための拠点を設置し、アーティストを招聘して実施する主催事業のほか、運営を担う3団体からなるパートナー「やわらかな土から」との協働事業も行いました。

(やわらかな土から構成団体：一般社団法人 NOOK、3.11オモイデアーカイブ、NPO 法人エイブル・アート・ジャパン)

【実施内容】

a) KOSUGE1-16 / Playmakers SENDAI

会期：通年

会場：東北リサーチとアートセンター (TRAC)、立町マイスクール児童館ほか

入場・参加者数：—

入場料等：—

共催等：—

[イベント]

・アッペトッペ屋さん

(10月16日-10月22日/会場：立町マイスクール児童館/参加者数:50名)

詩人スズキヘキと郷土研究家天江富弥を中心に展開した大正時代の児童文化運動に触発されたアーティストユニット KOSUGE1-16が、当時の活動を独自の解釈で現代に呼び起こすプロジェクト。2018年度は「子どものあそび場づくり」の一環として、児童館で宿題を手伝い子どもたちのあそぶ時間を増やす「アッペトッペ屋さん」を実施。子どもの普段の過ごし方を調査しました。また、「アッペトッペ=オガル・カタカナシ記念公園」(2016年)など仙台での3年間の取組みをまとめた冊子『KOSUGE1-16の「あそび考」』を発行しました。



b) 伊達伸明／しらべの細道・埋もれてたまる課

会期：通年
 会場：東北リサーチとアートセンター（TRAC）ほか
 入場・参加者数：646名
 入場料等：無料
 共催等：—

[イベント]

- ・しらべの細道 vol.3 進化する「野帳」考古学者 河内一浩の記録生活（2月22日-4月29日／参加者数：519名）
- ・しらべの細道 vol.3 関連企画「野帳のおはなし+いっしょにスケッチ」（3月10日／会場：仙台市富沢遺跡保存館 地底の森ミュージアム／参加者数：32名／協賛：コクヨ東北販売株式会社）
- ・千年のしらべ 瑞巖寺・埋木書院一日鑑賞会（8月26日／会場：瑞巖寺／参加者数：95名／協力：瑞巖寺）

美術家伊達伸明氏が企画する二つのプロジェクト。通常は研究や事業の準備段階とされる「リサーチ」の魅力に着目し、さまざまな分野の調査・研究名人を紹介する展覧会シリーズ「しらべの細道」を開催しました。また「埋もれてたまる課」は、仙台の希少工芸材「埋木」を活動テーマとして、瑞巖寺「埋木書院」の見学会（通常非公開）を実施。これにあわせ、埋木の歴史や魅力について話すゲストトークや、埋木製弦楽器の演奏が行われました。



c) 立ち上がりの技術 vol.02「つくる手 さぐる手 かきわけて」展

会期：2018年3月23日-4月22日
 会場：東北リサーチとアートセンター（TRAC）
 入場・参加者数：116名
 入場料等：無料
 共催等：やわらかな土から（共催）一般社団法人 NOOK、NPO 法人エイブル・アート・ジャパン（企画運営）Art Seeds、アトリエ創、社会福祉法人共生福祉会仙台ワークキャンパス、Gallery TURNAROUND、社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会こぶし、NPO 法人多夢多夢舎中山工房（協力）

障害のある5人の作家たちの作品と、それらがつくられた背景を描いた ZINE（手作りの本）を展示しました。

[出品作家]

大竹徹祐、きょうこ、工藤生、塗敦子、松浦繁

[イベント]

- ・てつがくサロン「作品を見るとは？」（4月7日／参加者数：22名）
- ・ギャラリーツアー（4月15日／参加者数：13名）



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」> A《地域展開事業》

d) 立ち上がりの技術 vol.03「とある窓」

会期：2018年11月2日-12月24日
 会場：東北リサーチとアートセンター
 (TRAC)
 入場・参加者数：502名
 入場料等：—
 共催等：やわらかな土から（共催）
 企画：一般社団法人 NOOK

沿岸部各地で写真家の森田具海が
 撮影した「とある窓」の写真と、地
 域と協働して記録をつくる組織・
 NOOK による語りの聞き書きを展
 示、イベントも開催しました。



[イベント]

- ・ワークショップ「あなたの窓の物語を
 書く」
 (11月10日/参加者数：3名)
- ・ゲストトーク「窓学からひとの暮らし
 を考える」
 (11月10日/参加者数：20名)
- ・アトリエ「聞いた風景を描く」
 (11月18日/参加者数：15名)
- ・てつがくサロン「風景ってなんだろ
 う？」
 (11月8日/参加者数：12名)
- ・おはなし会「私の窓、暮らしの風景」
 (12月8日/参加者数：16名)
- ・ギャラリーツアー
 (12月16日/参加者数：23名)



B《コミュニケーション事業》

2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」>
B《コミュニケーション事業》

(1) TALK（トーク）

アーティストや専門家によるトークイベント。今年度は、関本欣哉氏（Gallery TURNAROUND）、桃生和成氏（一般社団法人 Granny Rideto）、小岩勉氏（SARP 仙台アーティストランプレイス/仙台写真月間）、千田優太氏（一般社団法人アーツグラウンド東北）、FabLab SENDAI-FLAT（一般社団法人 FLAT）、菊地充洋氏（analog）、村上タカシ氏（一般社団法人 MMIX.Lab）、をパートナーに迎え企画しました。

【実施内容】

a) Sounds of Diversity —生きものと音楽を創る—

会期：2018年10月13日
会場：イベント倉庫 ハトの家
入場・参加者数：80名
入場料等：無料
企画運営：Gallery TURNAROUND
共催：とうほくあきんどでざいん塾
協力：協同組合仙台卸商センター

仙台市環境局による「生物多様性保全推進事業—せんだい生きもの交響曲—」と TALK の連携企画。環境音から音楽表現を生み出すアーティストらを迎え、生物多様性と音楽について話をうかがいました。



[ゲスト等]

菅原宏之（サウンドデザイナー）、
中里広太（サウンドアーティスト）、
KILLER BONG（ラッパー）、伊東篤宏（美術家）

b) これからの大人の部活動 —社会につながる文化的サードプレイス—

会期：2018年10月22日
会場：SENDAI KOFFEE CO.
入場・参加者数：30名
入場料等：1,000円
企画運営：千田優太（一般社団法人アーツグラウンド東北）

仕事とも家庭とも違う真剣で特別な時間を「部活動」になぞらえ、東北各地から集まったゲストらと語り合いを通じて良い社会につながるアイデアや可能性を探りました。



[ゲスト等]

小松理虔（地域活動家・ライター）、
阿部峻久（特定非営利活動法人 Wunder ground 事務局長）、松崎なつひ（宮城県美術館教育普及部学芸員）、今川和佳子（アートコーディネーター）

2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」>
B《コミュニケーション事業》

c) Making Ways of Making

会期：2018年11月24日
会場：FabLab SENDAI-FLAT
入場・参加者数：15名
入場料等：無料
企画運営：FabLab SENDAI-FLAT

韓国・ソウルでファブラボを運営するデザイナーの Hyun Parke（ヒュン・パク）氏をゲストに迎え、同じく仙台でファブラボ「FLAT」を運営するエンジニアの大網拓真氏を聞き手に、氏の活動や作品の解説や、デザインプロセスやその思考を紐解いていきました。

[ゲスト等]

Hyun Parke（デザイナー）、大網拓真（エンジニア）



d) 郷土芸能とまちづくり —三陸国際芸術祭から見える未来—

会期：2019年1月23日
会場：みやぎ NPO プラザ
入場・参加者数：24名
入場料等：無料
企画運営：千田優太（一般社団法人アーツグラウンド東北）

郷土芸能を世界に発信しようと2014年から始まった三陸国際芸術祭。これまでどのようなストーリーが生まれ、まちや地域の人々が変化してきたのかを「郷土芸能」と「まちづくり」の視点から語りました。

[ゲスト等]

佐東範一（三陸国際芸術祭プロデューサー／NPO 法人 JCDN 代表）、小岩秀太郎（〔公社〕全日本郷土芸能協会理事・事務局次長）、石井大一郎（宇都宮大学地域デザイン科学部准教授）



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」>
B《コミュニケーション事業》

e) デザインを伝えるということ

会期：2019年2月6日
会場：FabLab SENDAI-FLAT
入場・参加者数：21名
入場料等：無料
企画運営：FabLab SENDAI-FLAT

「デザインを伝えること」を中心に、執筆や展示企画等を手がける角尾舞氏をゲストに迎え、その取り組みや思考の背景についてお話をうかがったほか、実際に参加者が書いた文章をもとに「伝わりやすさ」について考えました。

[ゲスト等]

角尾舞（デザインライター／キュレーター）



f) アートブックの編集とデザインの裏側

会期：2019年2月10日
会場：THE6
入場・参加者数：29名
入場料等：1,000円
企画運営：一般社団法人 Granny Rideto

アートブックやアートに関する書籍の編集に携わる櫻井拓氏と、その装丁を手がける小池俊起氏を招き、本の企画・制作から納品までの一連のプロセスを紐解いていきました。

[ゲスト等]

櫻井拓（編集者）、小池俊起（グラフィックデザイナー）



g) 「コトのアート研究所」カフェトーク

会期：2019年2月23日
会場：アートインクルージョンファクトリー
入場・参加者数：37名
入場料等：無料
企画運営：一般社団法人 MMIX.Lab

この回を企画した MMIX Lab が進める鳴子温泉での古民家再生のプロジェクトや、石巻での復興支援活動拠点「コトのアート研究所」創設について、それらに関わるゲストを招いてお話をうかがいました。

[ゲスト等]

小田桐奨（L PACK.）、松村豪太（一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 代表理事）、村上タカシ（一般社団法人 MMIX.Lab 代表理事）、門脇篤（一般社団法人 まちとアート研究所 代表理事）、パルコキノシタ（美術家）、静音ちか（歌手）



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」>
B《コミュニケーション事業》

h) Hideyuki Katsumata x 古川貴司 公開制作 & トーク

会期：2019年3月9日
会場：analog
入場・参加者数：90名
入場料等：2,000円
企画運営：analog

アーティストのHideyuki Katsumata氏、版画工房 ZIGAME を運営する古川貴司氏を迎え、仙台の印刷スタジオ analog の菊地充洋氏が聞き手となり、イラストレーション、そして、シルクスクリーンなど版画印刷の未来について語り合ったほか、会場で公開制作を行いました。

[ゲスト等]

Hideyuki Katsumata（アーティスト）、古川貴司（版画工房 ZIGAME）、菊地充洋（analog）



i) 社会彫刻とクラフトジン 仙台と札幌の「2056」年を考える

会期：2019年3月21日
会場：大手町親和会集会所
入場・参加者数：26名
入場料等：500円
企画運営：仙台藝術舎 / creek
協力：CAI 現代芸術研究所、花壇大手町町内会、Gallery TURNAROUND

北海道で1996年に創設されたCAI 現代芸術研究所の代表・端聡氏と、その卒業生でもあるテラダエイジ氏を迎え、2014年から始まった札幌国際芸術祭のことなど、札幌のアートシーンについてうかがいました。

[ゲスト等]

端聡（美術家 / アートディレクター、CAI アートスクール代表）、テラダエイジ（始める自由人 / 社会彫刻家 / 社会探検家）、斉藤真由子（仙台藝術舎 / creek 3期生、CAI アートスクール 21期生）、関本欣哉（仙台藝術舎 / creek 代表）



2. 企画事業 > 2-3. アート事業「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」>
B《コミュニケーション事業》

(2) アートノード・ミーティング

会期：2018年8月5日（第5回）
会場：せんだいメディアテーク1f オープンスクエア
入場・参加者数：107名
入場料等：無料
共催等：—

アート・ノード・プロジェクト全体にかかる公開ミーティング。第一部は2018年の活動報告として、「みんなの船」制作と、「貞山運河の船遊びと新浜フットパス2018 Part2」での進水式の様子を紹介、制作に加わったフランスの建築家・オリビエ・ブデュ氏を交えお話ししました。第二部では、ゴン・ジョジュン氏が台湾で企画した「近未来的交陪：2017蕭壠国際現代芸術祭」を紹介、「おもてなし」という共通のテーマで、桂英史氏を交え川俣正氏の活動を振り返りました。



(3) JOURNAL (ジャーナル)

アート・ノード・プロジェクトについて広く伝えるとともに、地域の資源や課題と現代アートとの関係を可視化・記録していく印刷物を発行しました。
編集：(株) コミューナ、デザイン：ホームシックデザイン
・第4号（2018年10月）
・第5号（2019年3月）



2-4. その他事業（自主財源事業ほか）

指定管理業務に加え、各種機関との共催や、仙台市市民文化事業団自主財源による事業。

2. 企画事業 > 2-4. その他事業

(1) シネバトル わたしのイチ押し映画（シネ）はコレよ！

会期：2018年4月25日、6月27日、
8月29日、10月31日、12月26日（全
5回）
会場：2f 映像音響ライブラリー
入場・参加者数：101名（11名、21名、
21名、21名、27名）
入場料等：無料
共催等：—

3分の制限時間で映画を紹介しあい、
参加者が一番見たくなった作品を投
票で決める「シネバトル」。2013年
度から続き、第20-24回を実施し
ました。12月26日には今年度の金
賞・銀賞受賞者が再び集まる「グラ
ンドチャンピオン大会」を行い、角
掛修氏が選ばれました。



(2) シネバトル わたしのイチオシ映画（シネ）はコレよ！ グランドチャンピオン上映会

会期：2019年2月23日
会場：7f スタジオシアター
入場・参加者数：40名
入場料等：無料
共催等：—

2018年度のグランドチャンピオン
が推薦する映画を上映しました。
[上映作品]
・『リアル—完全なる首長竜の日—』
（監督：黒沢清／2013年）



(3) シネバトル トークサロン

会期：2018年5月30日、7月25日、
9月26日、11月28日、2019年1月
30日、3月27日（全6回）
会場：2f 映像音響ライブラリー
入場・参加者数：78名（10名、10名、
14名、17名、15名、12名）
入場料等：無料
共催等：—

映画や映像を自由に語り合える場と
して開催しました。各回のテーマは、
「映画の中の悪党」、「日本上陸40
年！スターウォーズの魅力について
語ろう！」、「『食』を効かせたシネ
マはいかが？～「食」のシーンから
映画を観たら～」、「ヒッチコックの
『サイコ（1960年作品）』」、「女性
がかっこいい映画」、「その気にさせ
といて —映画惹句の迷宮」。



(4) こどもスクエア

会期：2018年8月27日-29日、2019年1月15日-17日
 会場：1f オープンスクエア
 入場・参加者数：600名(227名、373名)
 入場料等：無料
 共催等：—

段ボールのトンネルや島に見立てたカーペットで空間を構成し、小さな子どもたちが安心して遊ぶことのできる場をつくりました。



(5) 活版印刷工房

会期：2018年4月22日、5月20日、6月17日、7月22日、7月29日（とぶらす・ウィーク期間中）、8月19日、9月9日、10月21日、11月18日、12月16日、12月23日、2019年1月20日、2月17日、3月17日
 会場：地下1階準備室
 入場・参加者数：355名
 入場料等：無料
 共催等：活版印刷研究会（共催）

活版印刷研究会と協働し、当館で所蔵する活版印刷の活字や道具、手フット印刷機を使ったワークショップや、「とぶらす・ウィーク」での展示等を行いました。



(6) SMMA 仙台・宮城ミュージアムアライアンス（ミュージアム活性化事業／指定管理事業）

仙台を中心とした博物館施設の共同事業体（2018年度18施設）の事務局を担い、ウェブサイトの運営等を行ったほか、当館1f オープンスクエアに参加館が一堂に会し、専門家によるトークや体験講座を行う「ミュージアム・ユニバース—すてき・ふしぎ・おもしろい—」（2018年12月14-16日／入場者数：2,064名）を開催しました。



3. 受託事業

仙台市より受託した事業。

3がつ11にちをわすれないためにセンター（震災復興アーカイブ事業）

2011年度から継続し、市民、アーティスト、専門家らとの協働により、東日本大震災に関する写真・映像・音声を、記録・発信・利活用に提供。通称「わすれん！」。

3. 受託事業 > 3がつ11にちをわすれないためにセンター（震災復興アーカイブ事業）

(1) ラウンジ交流展示 「アーカイブィークル大解剖」

会期：2018年9月8日-10月28日
 会場：7f ラウンジ
 入場・参加者数：5,374名
 入場料等：無料
 共催等：—

わすれん！では、東日本大震災の記録に興味をもってもらうきっかけとして、寄せられたデジタル記録を触れることができる道具や資料にしてみました。この展示では、それらを収納し閲覧できる移動式の小さな資料室「アーカイブィークル」の資料や機能、そして使い方を大解剖し紹介しました。



(2) 相馬クロニクルダイアログ

会期：2018年9月24日、12月1日、2019年3月10日（「星空と路」の一環として）（全3回）
 会場：7f プロジェクトルーム、7f スタジオシアター
 入場・参加者数：51名（16名、12名、23名）
 入場料等：無料
 共催等：相馬クロニクル（共催）

福島県立相馬高校放送局が制作した音声・映像作品に見られる福島県の高校生の震災や原発事故に対する思いから、私たちの暮らしやこれからのことを話す対話の場を開く取り組み。高校生の作品を上映するとともに、今年度は「ふるさと」「つなぐ」といったテーマをもちながら対話を展開しました。



3. 受託事業 > 3がつ11にちをわすれないためにセンター（震災復興アーカイブ事業）

(3) 星空と路 —これまでの記憶、これからの記録—

会期：2019年3月7日-4月21日
 会場：7f スタジオシアター、7f ラウンジ、1f オープンスクエア（3月7日-11日のみ）
 入場・参加者数：6,257名（2019年度分含む）
 入場料等：無料
 共催等：—

[イベント]

- ・上映と対話「飯館村に帰る」
 （2019年3月9日／7fスタジオシアター／参加者：52名）
- ・上映と対話「あなたと話したい」
 （2019年3月9日／7fスタジオシアター／参加者：44名）
- ・ガイダンス わすれん！「録音小屋」を紹介し
 ます
 （2019年3月10日／1f オープンスクエア／参加者：4名）
- ・てつがくカフェ 第70回「『二重のまち—交代地の歌を編む』の映像記録から継承を考える（再掲）
- ・相馬クロニクルダイアログ第4回（再掲）

震災から8年をむかえ、震災に対する向き合い方や関心に差が生じてきたなか、被害の状況や変わりゆく地域の記録だけではない参加者たちの想いや言葉を伝える活動の一部を展示・上映したほか、あらたな取り組みとして、ふたりひと組で震災にまつわる物語を残していくプロジェクト「わすれん！録音小屋」を発表しました。



4. 情報サービス事業

各種ライブラリーでの資料提供や情報メディア活用の支援。

4. 情報サービス事業 > 4-1. 映像音響ライブラリー、4-2. 教材ライブラリー、
4-3. 視聴覚障害者情報ライブラリー（バリアフリー・ライブラリー）、4-4. 地域映像ライブラリー

4-1. 映像音響ライブラリー

資料点数 13,981点

貸出点数 64,084点

新規登録者数 632名

4-2. 教材ライブラリー

資料点数 4,788点

資料貸出点数 392点

機材貸出点数 312点

4-3. 視聴覚障害者情報ライブラリー（バリアフリー・ライブラリー）

資料点数 6,034点

貸出件数 3,176件

対面朗読件数 283件

音訳・点訳件数 4件

音声読み上げパソコン利用件数 26件

音訳制作件数 18タイトル

（DAISY 資料 6タイトル、メディアテーク資料 [情報誌等] 12タイトル）

点訳制作件数 35タイトル

（視覚障害者情報ネットワーク「サピエ」登録 20タイトル、メディアテーク資料 [情報誌等]
15タイトル）

4-4. 地域映像ライブラリー

資料点数 16点

4-5. デジタルアーカイブ事業

《アーカイブ作成活動事業》

(1) smt コレクションの制作・公開

主催事業の記録映像、スタジオを拠点とした市民グループ等との協働による映像、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の活動を通じて制作された東日本大震災にまつわる映像に加え、今年度からは「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」の記録もふくめDVDパッケージにし（今年度29タイトル制作 / 累計376タイトル開架）、映像音響ライブラリー、および、教材ライブラリーで公開したほか、ライブラリー利用者にとどまらず、内外の報道、研究、上映会等のための貸出を行いました。



(2) 映像の仙台史

会期：2018年4月28日-29日
 会場：7f スタジオシアター
 入場・参加者数：240名
 入場料等：無料
 共催等：国立映画アーカイブ、一般社団法人コミュニティシネマセンター（協力）

『仙台—美術の場と記録—』では映像を見ながら1980-90年代の街の文化状況について話がなされ、『This is Sendai』『魚市場の一日』では、当時の街の様子を映像で見られたことの驚きと、さらに、国立映画アーカイブ研究員の大澤浄氏によるフィルム保存の重要性についても語られました。

[上映作品]

『仙台—美術の場と記録—』（2015年-2018年 / デジタル）、『This is Sendai』（1963年頃 / 30分 / 16ミリフィルム）、『魚市場の一日』（1964年 / 23分 / 16ミリフィルム / 提供：国立映画アーカイブ）他
 [ゲスト]

関本欣哉（美術家 / Gallery TURN-AROUND オーナー）、大嶋貴明（美術家）、大澤浄（国立映画アーカイブ主任研究員）



4-6. 活動支援事業

(1) 学校連携事業

仙台市小学校教育研究会図画工作部会と連携し、映像制作プログラム「コマ撮りアニメーションを作ろう！」（実践校数12校、児童数725名）の希望校への機材貸出とフォローアップ、図画工作部会教員実技研修会への講師派遣を行いました。

(2) 音声パソコンステップアップ講座

会期：2018年7月7日・8日、2019年 2月17日 目の不自由な方を対象として、音声パソコンの講習を行いました。
 会場：2f 会議室
 入場・参加者数：12名
 入場料等：無料
 共催等：仙台市視覚障害者福祉協会(協力)

(3) メディアスタディーズ

プロジェクトに取り組む個人・団体の方々との協働により、7f スタジオを拠点とし、地域の歴史や文化をデジタル・アーカイブとして残していく活動や、そのための企画・編集作業など、メディアを使った創作と実践に取り組みました。

[プロジェクトと協働者]

- ・活版印刷工房（活版印刷研究会）
- ・てつがくカフェ（てつがくカフェ@せんだい）
- ・ユースてつがくカフェ てつこの部屋（てつがくカフェ@せんだい）
- ・どこコレ？—おしえてください昭和のセンダイ（NPO 法人20世紀アーカイブ仙台）
- ・民話 声の図書室（みやぎ民話の会「民話 声の図書室」プロジェクトチーム）
- ・おほはしアラウンド（地域探検隊 -TTTT-）
- ・プロジェクション・せんだい（プロジェクション・せんだい）
- ・知る 続く 在来作物プロジェクト（みやぎ在来作物研究会）
- ・仙台前衛藝術の足跡を巡る（仙台ダダ外部調査委員会）
- ・みやぎシネマクラドル（みやぎシネマクラドル）
- ・いきもの記録係（いきもの記録係）
- ・失われた村の風景を記憶しなおす（『失われた風景を記憶しなおす』プロジェクト）
- ・カミングアウト／クローゼット（レインボーアーカイブ東北）
- ・Sendai.log（Sendai.log）
- ・細倉を記録した寺崎英子の写真アーカイブ（寺崎英子写真集刊行委員会）
- ・まち・ひとスケープ（まち・ひとスケープ）
- ・映画「あいたくて、ききたくて、旅にでる（仮）」製作プロジェクト（映画「あいたくて、ききたくて、旅にでる（仮）」製作プロジェクト）
- ・スローウォーク・センダイ（スローウォーク・センダイ）

5. 配布・刊行物等

今年度、当館で制作し、配布・刊行した冊子や映像音響資料、通信等。

5. 配布・刊行物等 > 5-1. 書籍や報告書等の印刷物、5-2. DVDメディア等の映像音響資料、
5-3. 紙やインターネットを通じた定期発行等、5-4. その他常備している印刷物

5-1. 書籍や報告書等の印刷物

- 『ヒスロム ヒステリシス』
- 『KOSUGE1-16の「あそび考」』
- 『アートノード・ジャーナル』（第4号、第5号）



5-2. DVDメディア等の映像音響資料

smt コレクションDVD29タイトル（シリーズ累計376タイトル）

[内訳]

- ・メディアテーク事業記録（9タイトル）
- ・協働による制作物（10タイトル）
- ・3がつ11にちをわすれないためにセンター資料（8タイトル）
- ・アートノード（2タイトル）

音訳資料 18タイトル

点訳資料 35タイトル

5-3. 紙やインターネットを通じた定期発行等

『館内の催し』（印刷物／毎月）

『けやき通り通信』（印刷物／隔月）

『教材ライブラリーだより』（印刷物／隔月／PDF版をウェブサイトで公開）

『せんだいメディアテーク・メールニュース』（メール配信／毎月／登録者2,344名）

ウェブサイト（年間ユニークアクセス総数590,380件）

5-4. そのほか常備している印刷物

総合案内（日本語版／英語版／フランス語版／中国語版／韓国語版）

総合案内（目や耳の不自由なかたへ）

総合案内（車椅子アクセス）

貸出施設利用案内